

いの流水俳壇

友草 水月選

「当季雑詠」

親しさの耳に口寄す梅雨の明け

片岡 包女

〔評〕包女さんは難聴者である。人との会話に苦労されているだろうと思う。実は私も加齢と共に難聴となり、補聴器のお世話になっている。それでも多人数の会や講演会など始と駄目である。毎日の生活の中で人には分からない苦労がある。包女さんは親しい人には耳に口を近づけてもらうての日常の会話である。日々の生活で対等に会話ができないのは悔しいが仕方がない。包女さんは高齢であるが車も運転し、毎月の句会にも出席され一人一倍熱心でもある。高所の俳壇にも度々入選されており、私たちみんな包女さんに力をもらい前向きに生かしてもらっている。

○砂浜に棒ひとつ立て梅雨明けぬ

平井 照敏

その人の幸せひかる白日傘

間 浩太

〔評〕今年6月というのに夏日(25度以上)、真夏日(30度以上)の暑さが各地でみられた。掲句は日傘をさしている女性が幸福そうに光って見えたこと詠んでいる。特に夏の外出には必要な日傘である。日焼けを防ぎ暑さを凌いで熱中症から体と健康を守る日傘である。

江戸時代には紙を張った日傘が流行したそう、明治時代になって西洋からパラソルとして伝わった。絵日傘は絵の模様のある美しいものや刺繍をしたり縁飾りなど装飾性の高いもので、和装にも使

うことができるものもある。

○唐寺を出る真白な日傘かな

有馬 朗人

夕顔の開花に合わず散歩かな

竹崎たかひろ

〔評〕散歩やジョギングは体力、健康維持や気分転換、ダイエットとして多くの人が朝や夕方やっている。作者もそのいづれかの目的でやっている。夕方「夕顔」の開花の時間に合わせて散歩に出かけるのであり、開花の時間に合わず発想である。

夕顔はアフリカの原産で同じ科のひょうたんはその変種である。源氏物語の「夕顔」は、はかなく美しい物語で、王朝貴族の心を捉えたその優雅さは今もなお人々の心を打つ。

○夕顔の一つの花に夫婦かな

富田 風生

梅雨晴間根付きし枝の鼓動かな

田萬恵美子

〔評〕6月、梅雨の時期にはいろいろな花木の挿木に絶好の季節である。雨が降り湿気が多い時期で植物の成長する季節でもある。作者は何の花木の挿木をしたのであろうか。既に根付いており枝から芽も出ようとしているその様子を鼓動と感じ、よく根付いてくれたとの感動である。物を見たままでなく、枝の鼓動ですばらしい句となった。

○梅雨晴間焼きむすびなど句はせて

星野麦丘人

二句抄

梅雨一日写経の筆を濡らせり

大川 節弥

庭草の伸びるがままに梅雨に入る

津田 久美

短夜の眠りの神に見離され

森岡 照月

額の花夕べの色となりけり

森岡 照月

二つ三つ西瓜の雌花宝物

森岡 照月

競い合うレースの如く花南瓜

森岡 照月

今しばし孤独なりけり梅雨の月
生きていることの仕合せ杜鵑花咲く
青梅の木陰に憩い眺む雲
ゆさゆさと影を写して谷卯木

小野川町子

河鹿笛葉黙となり朝餉かな

川村 博子

自転車の若き笑顔や衣更

國田 貞子

青葉切る庭師の缺影も切る

刈谷 志津

点点と里の灯ともる河鹿鳴く

岡村 嘉夫

父の日の酒は昔よ今は菓子

岡村 嘉夫

老いるとは制約多し冷奴

田萬恵美子

背伸して鏡ふく朝露兆す

片岡 包女

時かずとも狭畑をしめて紫蘇かおる

間 浩太

よく笑ふ人来てよき日濃紫陽花

竹崎たかひろ

十葉を煎じて飲ませ安保法

友草 水月

蛭豆飯しお加減もよし母の味

友草 水月

音もなく夜光の秒針明け易し

水月

名 句 鑑 賞

やれ打つな蠅が手をすり足をすり

小林一茶

一茶の俳句は人間生活に関係している句が多い。この句も有名で多くの人に覚えられている句である。蠅が前肢や後肢をすり合わせるしぐさが人間が汗で命乞いをしている姿に似ているので、はつとして蠅を打つ手を止めたというのである。「やれ打つな」は自分に言いかけた言葉である。

○雀の子そのこのけそのけお馬が通る

○やせ蛙負けるな一茶是にあり

○我と来て遊べや親のない雀

このように理屈や教訓的であり面白く覚えやすいため有名になったが皆秀句ではない。

次 題 「当季雑詠」

締め切り 毎月5日

投句先

教育委員会事務局

いの町1700-1
☎89311922

高知県の失敗しないお墓づくり

高知県内で2,000人以上の方に読まれている小冊子です。

- 何を決めればいいのか分からなかった、と、とりあえず小冊子を読みました。私たちにとても参考になり、お墓へ初めて行ったときには「ああ、良かった」と声が出ました。(M様 高知市)
- 冊子を読み進めていく中で、どの石屋さんからも説明のないことがたくさん書かれてあり驚きました。ただ、自分でも知識を付けたいと良いお墓はできないんだと。完成したお墓は自分で創り上げた気持ちで思いの詰まったものとなりました。(M様 南国市)
- インターネットで小冊子を読んだことがきっかけで、お墓を作ろうと思いました。石材店へ足を運ぶことは不安でしたが、親切な納得のゆく説明を受けこの人なら信頼できると直感し完成した墓は実に立派でした。(Y様 土佐山田町)

先着50名様
無料
プレゼント
※12月末まで



有料広告

お申込みは今すぐ!
※お申込みの際は、お名前、ご住所
電話番号をお伝えください。

☎0120-641-148
(午前8時～午後6時、年中無休)

〒781-2120 高知県吾川郡いの町枝川12248-1(有)三代目 竹内石材いのインター店
「しあわせなお墓づくり」小冊子プレゼント係 TEL.088-856-7502
※頂いた住所とお名前は、小冊子やご案内をお送りする以外は使用致しません